

1 記念館の利用の承認等に関する業務

● 来館者数の動向

- ・ 第3四半期の来館者数は、4,253人で、前年度同期来館者数(5,766人)と比べ、1,513人、約26.3%の減であった。新型コロナウイルス感染拡大防止のための開館時間短縮や秋の旧川喜多邸別邸(旧和辻邸)の一般公開中止、新型コロナウイルス感染症の再拡大等が影響し、来館者数が減少したと考えられる。月別に分析すると、1,515人(10月)、1,583人(11月)、1,155人(12月)と、6月からの再開館以降回復傾向にあった観覧者数が12月に大きく減少する結果となった。

2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務

● 施設・設備の維持管理

- ・ 通常の設備保守・点検等は適切に実施されている。
- ・ 館内環境について適宜報告があり、記念館の環境維持に配慮した施設管理を実施している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症対策のため、館内における抗ウイルス・抗菌コーティング作業を実施した。

● 資料等の維持管理

- ・ 施設の特性を考慮しつつ、適正な維持管理が行われている。

3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務

● 上映及び展示

- ・ 展示事業は、12月中旬まで、鎌倉、川喜多夫妻とゆかりの深い原節子と山口淑子の生誕100年に合わせて2名の歩みを振り返る展示を行った。全国紙やラジオ等のメディアで多く取り上げられたことで、市民だけでなく市外在住の観覧者の獲得につながった。また、12月18日から始まった通常展「バレエ映画の世界～日本バレエ発祥の地・鎌倉」では、当時のバレエ関連資料や映画ポスター等の貴重な展示資料が来館者から高い評価を得ているため、引き続き効果的な周知・宣伝に努めるとともに来館できない方々への発信にも取り組んで欲しい。
- ・ 上映事業では、企画展関連作品のほか、川端康成の文学作品を取り扱った映画や友の会会員による投票で選ばれたアンコール作品等の幅広いラインナップを揃え、上映を行った。特別展関連映画上映後のトークイベントはいずれも満席となり、撮影当時の歴史的背景や出演者の経歴に触れるなど、観覧者が上映作品をより深く知るための機会を提供した。

● 調査、研究及び情報提供

- ・ 次期展示事業のための資料調査、資料下見等を行っている。
- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のための情報資料室の閉鎖に伴い、映画資料や関連図書等の情報提供は行わなかった。

● 広報及び宣伝等

- ・ 市広報に展覧会や上映内容などの情報を掲載しているほか、市役所本庁舎内のモニターや広告パネルによる広告も利用し、より多くの市民等に向けて広報及び宣伝等に努めた。
- ・ 企画展関係者へのチラシ送付やSNSの活用など、更なる集客に向けた記念館の宣伝強化に努めた。
- ・ 利用者の利便性を高めるための環境整備やセキュリティを強化のため、記念館ホームページのリニューアルを行った。

● その他の事業

- ・新型コロナウイルスの感染拡大防止による臨時休館のため中止となった「春のシネマ・ウィーク」で上映予定であった5作品を「秋のシネマ・ウィーク」で上映した。観覧者数が伸び悩んだ作品の傾向や原因を調査し、今後の上映作品を選ぶうえでの参考とされたい。
- ・10月11日の植木金矢氏の一周忌に合わせて、特別展と関連した作品をはじめとする創作ポスターや時代劇画等の展示を旧和辻邸で行った。色彩豊かな美しい作品世界が旧和辻邸の風情ある佇まいに溶け込み、魅力的な演出ができたことで、旧和辻邸の新たな活用方法につながった。
- ・「鎌倉と映画」をテーマに市民と協働で実施する地域活性化イベント「鎌倉シネサロン」として『発酵する民』の上映及び舞台挨拶を行った。全6回の上映は全て満席となり、幅広い世代の市民等に鎌倉の映画文化を発信した。
- ・特別展に関連する場所を巡る友の会会員限定散策ツアーを開催し、友の会会員に対し入会特典の充実度を高めるとともに、鑑賞とは異なる観点から鎌倉と映画のつながりを再発見する機会を提供した。
- ・特別展に関連したテーマで開催されたトークイベントは、新型コロナウイルス感染症対策のため座席数減での実施となったが、石井妙子氏の注目度の高さもあり前売期間でチケットが売切れるなど、大変好評であった。

4 その他市長が定める業務等

● 事務処理

- ・例月の指定管理業務報告書等は期日までに提出されている。
10月分:11月13日、11月分:12月14日、12月分:1月14日提出

● 事故・苦情対応

- ・来館者から劇場内の座席間隔について配慮不足との指摘があったため、来館者に向けた新型コロナウイルス感染症対策の内容説明を強化するよう対応している。

● その他

- ・キュレーターによる上映後の上映解説や展示解説を実施することにより、観覧者の満足度を高めるとともに、リピーターの獲得に努めている。
- ・全国コミュニティシネマ会議や16ミリ映写機操作技術講習会等に積極的に参加し、他施設との円滑な連絡相談体制の構築を図るとともに記念館スタッフの能力向上に努めている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、旧和辻邸の秋の一般公開を中止した。
- ・「映画の日」である12月1日に無料観覧を実施し、市民に対し映画文化の関心を高める機会を提供し、利用者の促進を図った。
- ・鎌倉文学館との連携事業として、新たに展示観覧料相互特別割引や同館副館長による上映後アフタートークを実施した。文化施設相互の連携を深めるとともに、初めて記念館を訪れた方がいたことから、周知・宣伝の効果があったと評価する。

5 全体評価

- ・特別展は、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、同テーマを扱った前回展示ほどの観覧者数には至らなかったものの、メディアからの注目度も高く、集客力のある企画であった。上映事業及びその他事業で実施したトークイベント及び鎌倉シネサロンは、話題性のある人物の起用や内容の密度の高さから、いずれも満席となり好評を得ている。
- ・今回初めて実施した「映画の日」の無料観覧や鎌倉文学館との連携事業では、これまで記念館を訪れたことがない多くの市民等に対し記念館を宣伝することができた。引き続き、他施設との情報共有や連携強化に努め、好例は積極的に取り入れるなど、記念館のPRを図るとともに、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた事業の充実を目指してほしい。
- ・記念館ホームページのリニューアル等を活かし、より多くの市民等に記念館の情報が届くよう、効果的な発信に取り組まれない。
- ・特別展と関連したイベントの実施場所として旧和辻邸を利用することで、観覧者に対し、重要景観建造物である旧和辻邸の建築的価値を広め、展示内容の理解をより深めることができる機会を提供して
- ・施設の維持管理などの業務に関しては、日常点検をはじめ、細やかな報告が徹底されており、施設管理者に対して市が求める水準に達している。

令和2年度第3四半期判定評価表

【鎌倉市川喜多映画記念館】

評価項目	判定点	第3四半期 評価結果	減点
1 利用の承認等に関する業務			
来館者数の動向			
入館者数が前指定期間の同四半期の平均値と比較して80%以上の水準にあるか(不可抗力を原因とするものを除く)	5	○	
2 記念館の施設及び設備並びに資料等の維持管理に関する業務			
施設・設備の維持管理			
定められた点検が実施されているか	5	○	
不具合箇所を放置せず、必要に応じて修繕を実施しているか	5	○	
庭園、進入路などの手入れはきちんとされているか	5	○	
資料等の維持管理			
資料等の維持管理は適切に実施されているか	5	○	
3 記念館の事業の企画及び実施に関する業務			
上映及び展示			
計画どおりに企画展が開催されているか	5	○	
予定どおり映画上映が実施されているか	5	○	
調査、研究及び情報提供			
映画関連資料等の調査・研究を行っているか	3	○	
研究の成果を公開しているか	3	○	
その他必要な業務			
展示・上映以外の事業は適正に実施されているか	5	○	
来館者ニーズの把握・反映につとめているか	5	○	
4 その他市長が定める業務等			
事務処理			
決められた期日までに報告書は提出されているか	5	○	
市との連絡調整はきちんとされているか	5	○	
市と協議を行った事項は確実に実施されているか	5	○	
固有の銀行口座で適正な会計処理を行っているか	10	○	
苦情対応			
来館者や近隣との間のトラブルに適正な対処をしているか	5	○	
苦情・要望への迅速な処理、市への報告はされているか	5	○	
その他			
研修等自己啓発の努力がされているか	3	○	
災害時の対応ができるよう、準備はされているか	3	○	
個人情報適切に管理されているか	10	○	
減点の計			0

実施されている場合・・・○ 実施されていない場合・・・×

減額率

減点の合計	減額率
10～15	5%
16～20	10%
21～	20%